HOTEL

DAVID MISKIN *introduces a new notion of* LUXE HOSPITALITY

〈seven x seven〉をご存知だろうか。
〈FHG HOTELS〉が手がける、注目のリゾートホテル。
マリオットやヒルトン、ハイアットといった、既存のエスタブリッシュメントとは
一線を画す、新たなホスピタリティ体験をかかげる新鋭の旗手、
デイビッド・ミスキンがそのヴィジョンを語ってくれた。



Portraits by Maciej Kucia



seven x sevenやfavを生み出す、FHG HOTELSとは?

そもそも、seven x seven（セブン バイ セブン）は一体どこからやってきたのだろうか。その母体は、〈FHG HOTELS（エフエイチジー ホテルズ）〉という、物流事業やホテルからヘルスケア領域まで広く不動産コンサルティング業を手掛ける霞ヶ関キャピタルの子会社だ。彼のホテル事業の中核をなすのが、ハイエンドブランド〈seven x seven〉と、より広い層に愛される〈fav〉ブランドである。

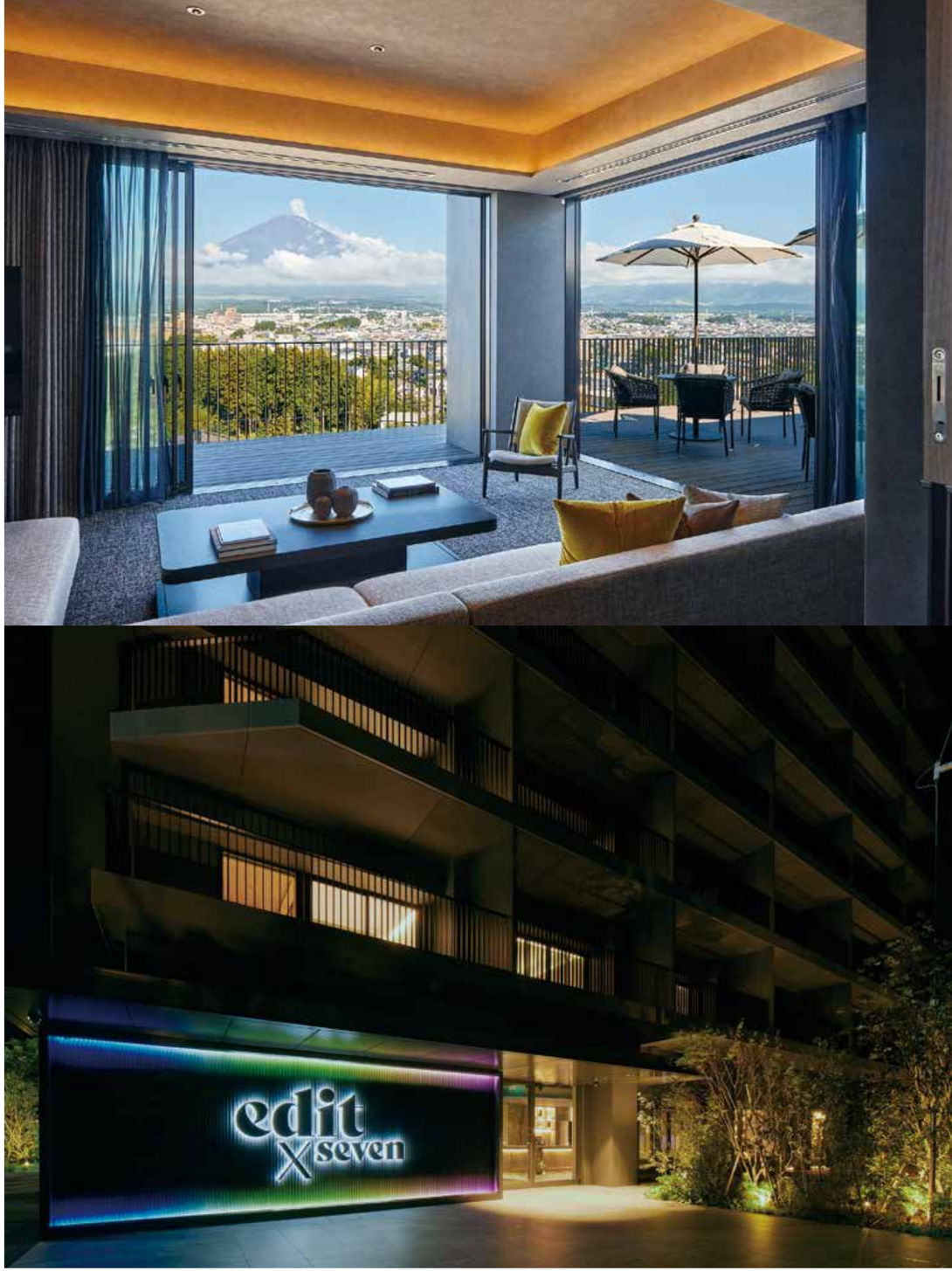
去年９月にオープンした石垣島の〈seven x seven〉は、その代表格。世界の富裕層に向けた日本のラグジュアリーなホテル・旅館、レストランを発信するアワード「Luxury Japan Hotel Award 2025」では、“The 10 Best Hotels in Japan”を受賞するなど、そのポテンシャルは推して知るべし。

seven x seven 石垣

デイビッドが描く、ラグジュアリーとセルフホスピタリーが融合した、〈fhg〉のシグニチャーホテル。地下にある“真っ赤な空間”に染まった大人なバー「レッド（Red.）」にも注目。沖縄県石垣市真栄里254-19







edit x seven 富士御殿場

seven x seven 石垣の翌年に静岡県御殿場に開業。グループでの滞在も可能なサイズの部屋も完備。都心からのアクセスの良さも魅力的。静岡県御殿場市東田中1179-1



札幌すすきの


東京・両国


飛騨高山


三重・伊勢

20年にホテル事業に参入。驚異的なスピードで27年には全国で38棟に。



広島スタジアム


熊本


鹿児島中央



長崎

“Where Luxury goes to play”
NYCから東京へ。
ユニークなバックグラウンドから導き出された、ラグジュアリーの新提案。

「ラグジュアリーって、もっと自由なはずなんです」そうデヴィッド・ミスキンは朗らかに切り出した。
「僕が子供の頃、とある “高級ホテル” に家族で泊まったんです。そしたら、ジャケットにシャツ、そしてネクタイまでが必須でね（苦笑）。格式やルールも決して蔑ろにしたい訳ではない。けれども、“そうじゃないラグジュアリー”があっても良いのでは、と自然と思うように。
〈seven x seven 石垣〉にはそんな原体験を反映させてみたんです。誰でも気軽に来られて、自由に楽しめる場所です。言ってみれば、“スニーカーやサンダル、Tシャツで行けるラグジュアリーホテル”です。もちろん格好だけの話ではありません。一般的な高級ホテルのイメージといえば、“至れり尽くせり”。それって時々息苦しくありませんか？まるで朝食に起こされるように朝を迎える、なんて思い出ありませんか？ゆっくりと、自分のペースで、自分の部屋でコーヒーを淹れる。それって、豊かなホテルの時間ではないですかね？そんな感覚を、私は“セルフホスピタリティ”なんて呼んでいます。」
デイビッドのバックグラウンドは非常にユニーク。世界的に名高いホテルブランドの開発だけでなく、「ランボルギーニ」に「ネットフリックス」などのプロジェクトにも参画。既成のラグジュアリーに囚われない、自由なアプローチが彼の魅力だ。そんな彼が腕を振るっているのが、〈FHG HOTELS〉が手掛ける〈セブン バイ セブン〉を始めとした複数のホテルブランドだ。この数年の内に、20施設をオープン予定と多忙を極めている。
「予約率や客数、利益といったソリッドなビジネス面を疎かにするつもりはありません。ただ、最重要なのはカスタマーエクスペリエンス。出来る限り多くの宿泊者の方々からのフィードバックを取り入れて、サービスに磨きをかけ、まるで第２のホームのように、何度も訪れてもらえるようなホテルを目指していきたいです」

David Miskin／デイビッド・ミスキン
霞ヶ関キャピタル株式会社
チーフクリエイティブディレクター
世界最大のマーケティング会社「アイリスワールドワイド」、「ランボルギーニ」や「ネットフリックス」、そして、グローバル展開するラグジュアリーホテルなど、多くのブランド開発に携わる。現在は、霞ヶ関キャピタルが展開するホテルブランドの他、同社の持つバスケットボールチーム、レーシングチームなどのクリエイティブディレクションを手がける。

Portraits by Maciej Kucia

